

芸州巖島図絵に見る名所と景観についての考察

今川 朱美¹・木下 諒²

¹正会員 工博 広島工業大学工学部環境土木工学科 (〒731-5193 広島市佐伯区三宅2-1-1,
E-mail:a.imagawa.vf@it-hiroshima.ac.jp)

²正会員 広島県東部建設事務所三原支所 (〒723-0015 広島県三原市園一町2-4-1,
E-mail:r-kinoshita74690@pref.hiroshima.lg.jp)

本研究では、芸州巖島図会の挿絵・風景画に描かれた名所に対する視点場・視対象を特定し、分布図を作成する。そして、季節や地形等が読み取れる挿絵・風景画から、景観要素をデータ化し、空間構成と機能構成について分析を行なった。その結果より、宮島の名所景観の特徴としては、①神社仏閣の名所が多く、宮島景観の主軸となっている。②春と秋の名所が充実している。③山辺空間では谷に、海辺空間では岬に名所が多く認められ、その地形を活かし活かされる機能を有した名所となっていることがわかった。起伏にとんだ地形の生み出す魅力こそが宮島の景観を形成していることが明らかになった。これらの宮島の名所景観の特性は、現在も色濃く継承されていることが確認できた。

キーワード: 芸州巖島図絵, 宮島, 山辺と海辺, 景観, 視点場, 視対象

1. はじめに

「芸州巖島図会」^{※1)}は、文化的に成熟した江戸時代後期に描かれた名所図絵である。290枚の風景画・挿絵のうち133枚が名所図(風景画)でありいずれも秀逸である。それらには、具体的な景色や寺社などが写實的に描かれており、四季を通じて江戸庶民の情緒を風景に盛り込み、さらに、ランドスケープ構成要素を詳細に表現した図会であり、唯一のマスメディアとして中心的役割を果たした浮世絵版画である。それらについて、景観要素をデータ化し、について分類し、宮島の名所がどのような特性・特徴を持っているかを考察を行う。その結果より宮島の名所の景観的特性と特徴を明らかにすることを目的とする。

2. 芸州巖島図絵と既往の研究

江戸後期になると、幕府や藩により地誌が編纂される一方で、諸国の名所案内や地誌的な内容をもつ「名所記」が出版されるようになった。18世紀後半になるとこれまでの「名所記」を源流として、名所・神社・物産などを記して風景画をそえた「名所図会」と呼ばれる通俗地誌が出版された。

「芸州巖島図会」(以降「図会」とする)は、寛政8年(1796年)から文化3年(1806年)の第1期「名所図会」ブームの時期に出版された。全十巻のうち前五巻は名所図会、後五巻は巖島宝物図会、天保13(1842)年、天保己未(1835)年に発刊の挨拶が認められる。

本学図書館蔵書は、①国会図書館に所蔵されているものと凸版印刷の摩耗状態からほぼ同一のものと推測されること、②表紙が紺色で宝珠打ち出し文様が施されていること、③蔵藩主宮崎小十郎が他界後は版の所在を墨で消しているが、本書は国会図書館蔵書や国文学研究資料(奈良県)と同じく蔵藩主らの名が認められることから、第一版とされる国会図書館蔵書と同時期のものであると考えられる。本研究では、本学図書館蔵書の図会のうち、前半五巻の名所図会をもちいる。

図会を用いたり参考にした既往の研究には、船附の「巖島新絵図」がある。図会の名所の説明、宮島の文化と歴史や自然環境などを記述しており、宮島の郷土紹介にとどまっている。

池田ら^{※2)}による寺社を中心とした門前町形成に関する研究、森保ら^{※3~5)}による、宮島町のみず・みち・いえ等の空間構成の基本に焦点を当て、宮島の古絵図などと現在の地図との比較した研究などがある。いずれも、宮島の集落に注目した研究である。

景観研究では、花岡ら^{※6)}による、町並の景観と保全に関する研究、があるが、こちらも町並み保全をテーマにしている。

本研究は、図会に記載されている名所図に着目し、風景や景観を視座として分析・考察を行った研究であり、同様のものは見られない。

3. 名所図の要素と季節分類

(1) 神社仏閣を対象とした名所

図会に描かれた名所図の特徴的な要素として挙げられるのは、神社仏閣を主対象とした名所図の割合は全体の約50%にも及んだことである。名所の半数近くが神社仏閣を主対象としていることから、神社仏閣は主要な名所であったと考えられる。そもそも宮島は神職や供僧が住み始めたこともあり、生活が信仰と深いかわりを持っていた。そのため、神社や寺院が多く分布し、身近なものであったことから、名所として多く描かれたと考えられる。

(2) 季節のわかる名所図

図会に描かれた名所図の四季を区分した。季節の判

断には花や、動物、名所図の説明文に記載されている暦から確認を行った。暦が確認できた場合は、春を3~5月とし、季節を3か月ごとに区切った。名所図から確認する際は、春を示す景物は、桜、梅、藤、潮干狩りなどであり、夏は、蛍、納涼、ホトトギスがあげられる。秋は、紅葉、月、鹿などで、冬であれば、雪が描かれている。

特定することができた名所図は、133枚中67枚で、全図会の中の60%が季節の景物を備えていた。67枚のうち春35枚、秋が19枚であり、春や秋に宮島の名所をより楽しめるということが分かった(図1)。

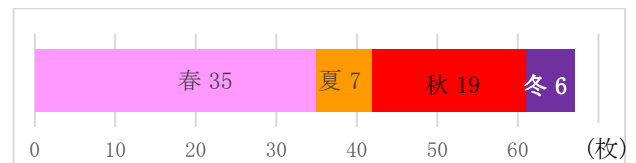


図1 芸州厳島図会季節図会数 (n=67)

四季の特定できた名所図67枚の、視対象の位置を地図上にプロットすることで、四季別に視対象の分布を示したものが図2である。描かれた枚数の多い春と秋の分布が山と平地の境界である山辺に多く分布している。

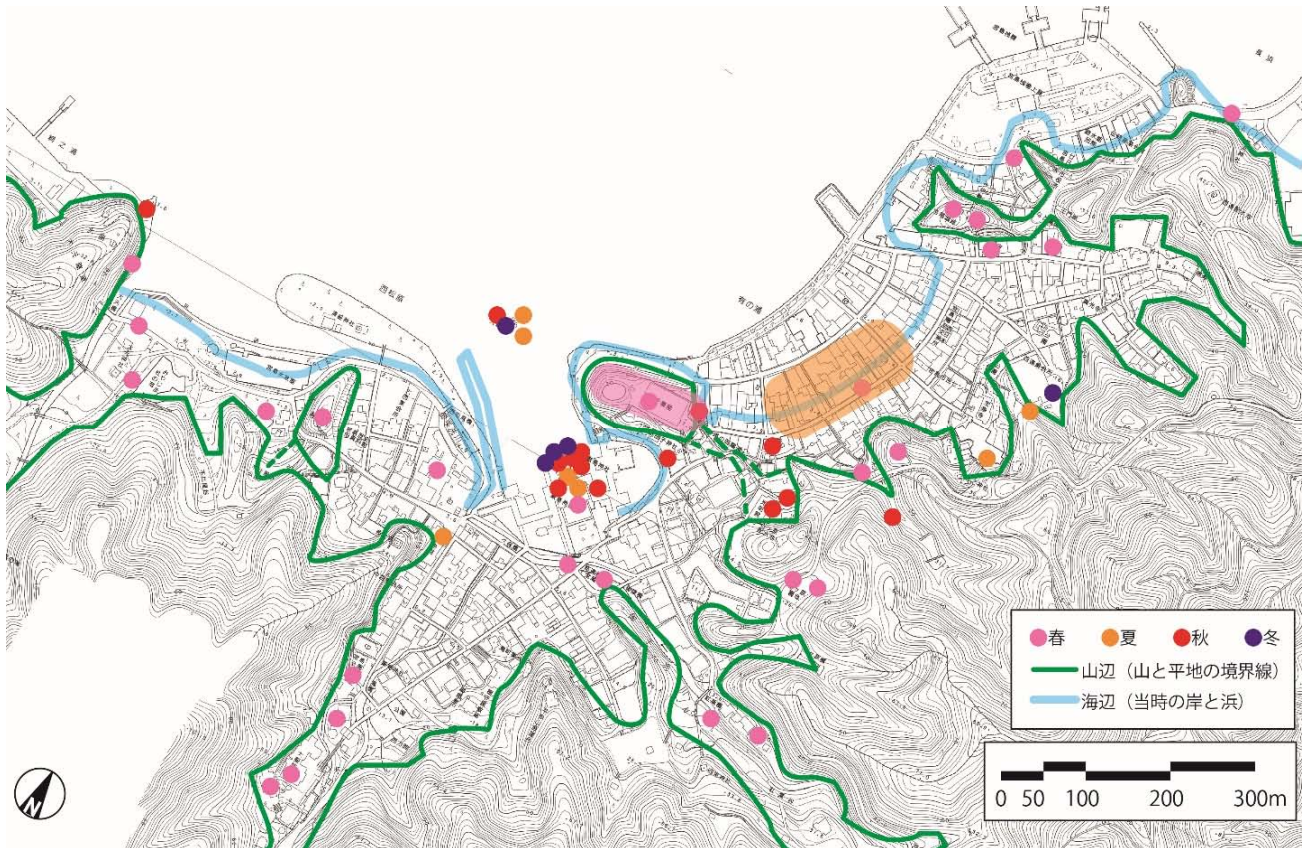


図2 名所の四季別視対象分布図

3. 地形による景観特性

名所図は、必ずしも視点場が定まっているとは言えず、鳥瞰図が多い。起伏のある地形の立体感や遠近感がよく表され、土地の状況を把握しやすい。名所図から地形のわかるものは54枚認められ、山辺26枚(約48%)水辺21枚(約39%)で、山辺の方が少し優勢であった。さらに、宮島の地形から谷と岬が確認でき、谷は17枚(約25%)、岬は6枚(約11%)であった。

この山辺空間のうち「谷」という地形は、左右から山が迫り、隠れもった場所として「庇護性」に長けている(図3)。また、かつては海辺空間であった「岬」は平地や海に向かって山の先が突き出した地形をしており、

広い視界を確保できる場合が多い。そして平地より高い位置にあり、俯瞰で景色を眺めることができ「眺望性」が高い(図4)とされている^{※8)}。

これらの名所の位置を地図上にプロットしたところ、庇護性と眺望性を活かす機能を有した名所「要害の鼻」「塔の岡」「白糸の瀧」などが確認できた。(図5)庇護性の高い谷に確認できた名所には庭園や寺院を含む建造物が多く確認できる。これは、庇護性のある場所で隠れながらにして楽しむことが四季を通じて好まれていることがわかる。一方、眺望性の高い岬の名所には、桜の名所が多いことから花見を楽しむのに適した場所であることがわかった。なお、岬は埋め立てにより、現在は街もしくは山辺空間となっている。

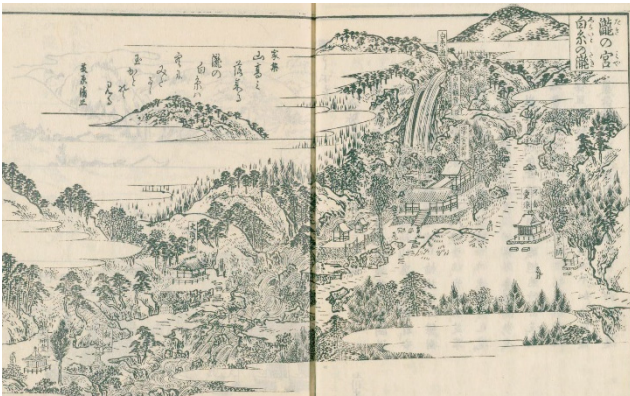


図3 庇護性の高い「瀧の宮」第4巻16

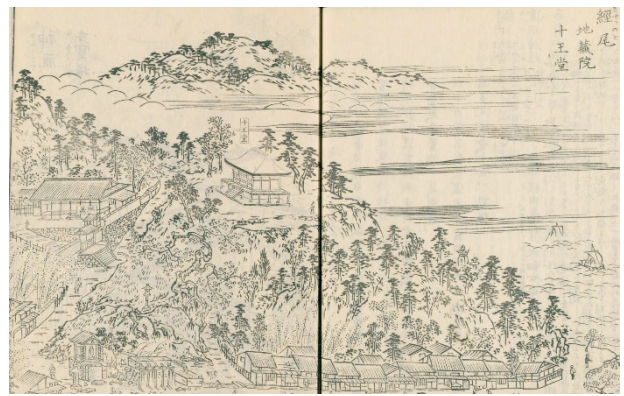


図4 眺望性の高い「経尾」第3巻41



図5 岬・谷の地形分類

4. 景観構成要素による景観特性

名所の図会を構成する景観要素により分類したところ7つの特性が明らかになった。(図6)

さらに細分化すると、地形の変化を、線的・面的・立体的要素として捉えると、地形の切り替わる境界ラインに名所が多いことがわかる。地形的特性を捉えたものも多いが、自然現象として珍しい蜃気楼や

厳島神社の潮の満ち引きも注視され表現されていた。

表現された空間を見ると、宗教空間や祭礼空間だけでなくランドマークとなりえる工作物が強調されている。寺社前面や境内での日常的活動を表現したものは観光化をアピールする風景画だとも考えられる。描かれた樹木種、たまり場、通り景観の表現、周縁部境界の表現等も宮島の景観特性を図会に描くことで広く紹介していることがわかる。



図6 景観構成要素による特性分類

5 結論

本研究で図会の名所図から見出した宮島名所景観の特徴としては、①神社仏閣の名所が多く、宮島景観の主軸となっている。②春と秋の名所が充実しており、季節のわかる名所図の半数は春を描いていた。③山辺空間では谷に、海辺空間では岬に名所が多く認められ、その地形を活かし、活かされる機能を有した名所となっている。起伏にとんだ地形の生み出す魅力が宮島の景観を形成していることが明らかになった。

宮島の景観特性を形成するのは、山辺と海辺の空間である。山辺の「谷」は庇護性に優れ、神社仏閣などが多く厳かな祭礼空間であると同時に、四季を楽しめる要素を備えた場所となっている。一方海辺の「岬」は眺望性に優れており、花見などにより活気あるにぎやかな雰囲気があり眺望空間を形成している。これらの宮島の名所景観の特性は、現在も色濃く継承されており、図会により観光化への狙いも見事に受け継がれている。したがって図会の名所は観光資源として活かされていることが明らかになった。

註

- 1) 厳島神社を中心とする厳島(広島県宮島町)の名所図会。芸州浅野家に仕える岡田清の編著で「厳島図会」5巻と「厳島宝物図会」5巻の全10冊から成り、最終巻は天保《てんぼう》13年(1842)に出版された。
- 2) 池田道人・大場久恵「厳島門前町の形成と展開 寺院との関係を中心にして」日本建築学会中国支部研究報告集, pp137-140, 1982
- 3) 佐々木香菜子・森保洋之「集落における古民家とその近隣との順応性に関する研究 宮島門前町を対象とした考察」広島工業大学紀要44巻, pp307-314, 2010
- 4) 下瀬瑞貴・森保洋之「集落の空間構成に関する基礎的研究 宮島門前町東町を対象とした考察」日本建築学会中国支部研究報告集, pp465-468, 2011
- 5) 駒井達也・森保洋之「宮島門前町東町の街区形成過程と敷地割に関する一考察」日本建築学会技術報告集, pp19-14, 2013
- 6) 花岡拓朗・西山徳明「広島県宮島町厳島神社門前町における町並み保全に関する研究」2005
- 7) 船附洋子「厳島新絵図」ザメディアジョン, 2011
- 8) 参考文献3『日本の景観 - ふるさとの原型 -』の中で書かれている地理学者ジェイ・アップルトン氏の考え方をより、庇護性と眺望性という性質を見出した。

参考文献

- 1) 岡田清 編, 山野峻峯斎 画: 厳島, 巻之 1-10, 中島本町 世並屋伊兵衛, 1842
- 2) 宮島町: 宮島町史 資料編」凸版印刷(株), 1991
- 3) 樋口忠彦: 日本の景観 - ふるさとの原型 -, 1993